

心身共にたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成



茅小だより 2月号

令和6年1月31日（水）

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校
校長 吉野 利彦

子どもが自ら探究する力を 育てていくために

厳しい寒さが続いておりますが、梅のつぼみがふくらみ始め、春の息吹を感じる頃となりました。保護者や地域の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

学校では、年が明けてから、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染は、それほど広がっていませんでしたが、先週、2年生で1クラス学級閉鎖を行うなど、感染の広がりが懸念されています。うがいや手洗いなどの感染防止対策を、学校と家庭でしっかりと行っていく必要があると考えております。

さて、保護者の皆様は、子どもが野原で遊んでいて、きれいな蝶を見つけたときに、「あの蝶をつかまえたい。」と言ってきたらどのように対応するでしょうか。親が子どもに与える「もの」の違いによって、子どもが身に付ける力には大きな違いが生まれてくると思います。

例えば、「蝶」を与える場合と「虫取り網」を与える場合とでは、どのような違いが生まれてくるでしょうか。親が蝶をつかまえて子どもに与えれば、子どもは何の苦勞もしません。しかし、虫取り網を与えられた子どもは、自分で蝶をつかまえるために、いろいろなことを考えて行動に移していきます。蝶が隠れていそうな場所を探したり、蝶の飛び方を観察したり、網の使い方を工夫したりするなど、1匹の蝶をつかまえるのに試行錯誤を重ねていきます。様々な苦勞や失敗を経験して、自分で蝶をつかまえたときの喜びや感動は、計り知れないほど大きなものとなるでしょう。

子どもたちが、変化の激しい社会の中で生き抜いていくためには、自ら考え、適切な判断をしながら行動していく力が求められていきます。子どもは、達成したい目標があるとき、「手段」や「材料」を与えられると、それをどう活用していけば目標を達成することができるようになるかを、自分で考え始めます。学校でも、子どもの主体的な学びを生み出していくために、様々な機会を通じて、適切な「手段」や「材料」を与えて、子どもが自ら探究していくことを大切にしていきたいと考えています。